

## 2016年3月期第2四半期決算 説明要旨

株式会社リクルートホールディングス

### 2016年3月期 第2四半期累計実績について

#### ■連結業績サマリ

第2四半期累計実績は、第1四半期のトレンドから大きな変化はなく、各事業セグメントが好調に推移し、とりわけ、人材メディア事業における海外人材募集領域及び販促メディア事業における旅行・美容分野が好調に推移した結果、売上高は、前年同期比19.3%増の7,364億円、EBITDAは9.3%増の937億円となりました。この上期実績は、社内計画に対して売上、EBITDAともに上振れており、好調な実績となりました。営業利益については、前年同期比2.1%減の522億円となりましたが、これは減価償却費やのれん償却額の増加によるものです。また、第1四半期に計上したものが中心になりますが、投資有価証券売却益及びM&Aに伴う段階取得に係る差益等からなる特別利益77億円を計上したことにより、四半期純利益は、前年同期比14.1%増の324億円となりました。

また、M&Aによって当期新たに業績寄与した子会社は、第1四半期において主にQuandoo社とPeoplebank社、更に、当第2四半期からは主にChandler社とAtterro社となります。それらを控除した既存事業ベースでの実績は、売上高で前年同期比9.7%増の6,770億円、EBITDAで9.0%増の935億円となっており、こちらも順調に進捗しております。

セグメントEBITDAの調整額のマイナスが拡大しておりますが、これは主に、今期よりM&Aに伴うアドバイザー費用が一括での費用計上に変ったこと、並びにIT人材の採用・育成の強化、ITセキュリティ対策費用の強化等に取り組んだことによるものです。これら費用増が生じた中においても、とりわけ、海外人材募集や旅行、美容分野等が好調に推移したこと等を受けて、第1四半期に引き続いて、全社EBITDAは前年同期比で増益となっております。

#### ■販促メディア事業

売上高は、前年同期比5.7%増の1,669億円、EBITDAは0.5%増の441億円となりました。ライフイベント領域が1.8%の増収と堅調に推移したほか、日常消費領域は9.5%増収となり、引き続き好調に推移いたしました。

一方で、第1四半期より業績寄与している、主に欧州で飲食予約事業を展開するQuandoo社はスタートアップ企業であり、当初計画通りではありますが、EBITDAがマイナスである影響等により、EBITDAは0.5%の増益に留まりました。

ライフイベント領域について、住宅分野の分譲マンション部門においては、新築マンションの供給戸数が未だ低い水準にあり、当社売上高も低調に推移いたしました。その下げ幅は前年同期と比較すると緩やかになっております。一方で、戸建・流通部門や、賃貸部門は引き続き好調に推移したことから、住宅分野全体の売上高は前年同期比5.8%の増収となりました。なお、結婚分野の売上高につきましては、0.2%の減収と、ほぼ横ばいでの推移となりました。

日常消費領域について、旅行分野では、第1四半期に引き続き、宿泊施設の稼働率上昇を背景とした、宿泊単価の上昇及び当社サービスにおける宿泊者数の増加が続いており、売上高は前年同期比16.4%増となりました。なお、宿泊単価は前年同期比1桁中盤の伸び率、宿泊者数は前年同期比で1桁後半の伸び率となっており、第1四半期と

同水準の伸び率が継続しております。美容分野については、当第2四半期累計期間における予約件数は1,733万件となっており、前年同期比で2桁の高い成長率が続いております。その結果、既存クライアントとの取引拡大や新規クライアントの獲得が進み、売上高は前年同期比18.7%の増収となりました。

また、飲食分野においては、大手居酒屋チェーンの業績低迷による影響は依然としてあるものの、戦略として進めている中小クライアントの獲得が順調に進んだ結果、前年同期比5.0%の増収となりました。なお、当第2四半期末における有料掲載店舗数は、前年同期末比で約25%増となっております。当第2四半期累計期間における飲食分野のネット予約人数は1,458万人となっており、美容分野と同様に前年同期比で2桁の高い成長率が続いております。

国内事業における重点戦略の進捗状況に関しましては、中小企業向け業務支援分野として進めている「Air シリーズ」の展開ですが、当第2四半期末における「Air レジ」の登録アカウント数は20.5万アカウントとなりました。なお、当期はアカウント数の効率的な拡大に並行して、利用率や、頻度の向上にも注力することで、引き続きマネタイズに向けて Air シリーズの取り組みを強化しております。また、進学分野では、当第2四半期末における「受験サプリ」の有料会員数が14.7万人となり、こちらも順調に拡大いたしました。

また、第1四半期において新たに業績寄与している、オンライン飲食予約サービスを展開する Quandoo 社につきましては、子会社化時のプロジェクションから変更ありません。現在は、欧州におけるオンライン飲食予約数 No.1 の実現に向けて、予約可能店舗数の拡大に注力しており、2015年6月末時点の予約可能店舗数は約8,600店、更に、10月末時点では11,500店を超える等、順調な推移が続いております。なお、欧州でオンライン美容予約サービスを展開する Hotspring 社及び Treatwell 社の業績寄与時期は、第3四半期からを予定しております。また、Hotspring 社の予約可能店舗数につきましても、2015年9月末で18,000店を超えており、こちらも子会社化時のプロジェクションに対して順調に推移しております。

## ■人材メディア事業

国内人材募集及び海外人材募集領域ともに好調に推移した結果、売上高は、前年同期比18.5%増の1,621億円となりました。また、EBITDA は、海外人材募集領域を中心とした売上高の増加に伴い、前年同期比20.7%増の388億円と、大幅増益となりました。

国内人材募集領域においては、9月の有効求人倍率が1.24倍になる等、好調な市場環境が継続いたしました。このような環境のもと、ユーザー集客や営業体制の強化を行ったこと等により、売上高は、前年同期比7.2%増の1,171億円となりました。

海外人材募集領域においては、引き続き、中小クライアントのサービス利用拡大が続いており、前年同期比81.0%の大幅な増収となりました。

なお、為替変動による売上への影響額はプラス37億円であり、その影響を除いた場合の売上高伸び率は、62.2%となっております。

また、2015年1月から6月の平均月間ユニークビジター数は、主に米国以外の地域において順調に拡大し、前年同期比48.2%増の1億6,900万となりました。

## ■人材派遣募集

売上高は、国内派遣領域が堅調に推移したことに加え、海外派遣領域での円安影響や、M&Aにより取得した海外子

会社の新規業績寄与により、前年同期比 25.7%増の 4,123 億円となりました。また、EBITDA については、売上高の増加に加え、主に海外の既存子会社において効率的な経営が順調に進展したことから、20.3%増の 228 億円となりました。

国内派遣領域における売上高は、前年同期比 4.9%の増収となりました。

また、海外派遣領域における売上高は、円安の影響等を受けた結果、前年同期比 54.8%の増収となりました。なお、当第 2 四半期に新たに、豪州の Chandler 社及び米国の Atterro 社が業績寄与しており、上期において、新たに業績寄与した会社の合計売上高は 591 億円となります。既に第 1 四半期に連結を開始した Peoplebank 社の業績は、計画に対して好調に推移しており、第 2 四半期より新たに連結を開始した Chandler 社、Atterro 社を含め、今後もバリューアップに取り組んでまいります。

また、為替変動による売上影響額はプラス 204 億円となり、新規連結及び為替影響を除いた場合の売上高は 3.4%の減収となりました。これは、第 1 四半期にご案内の通り、経営効率化を進める中で一部取引を終了したこと等によるものですが、この減収は、通期見直しには織り込み済みの内容であり、当社の戦略である EBITDA マージンの改善、ひいては実額の増加自体は想定以上に進んでいることから、順調な進捗と認識しております。

## 2016 年 3 月期 通期見直しについて

### ■ 連結業績見直し

通期見直しについては、期初公表した内容から変更はありません。

以上

### 免責事項

本資料の作成にあたり、当社は当社が入手可能な情報の正確性や完全性に依拠し、前提としていますが、その正確性あるいは完全性について、当社は何ら表明及び保証するものではありません。

また、将来に関する記述が含まれている場合がありますが、実際の業績は様々なリスクや不確定要素に左右され、将来に関する記述に明示又は黙示された予想とは大幅に異なる場合があります。したがって、将来予想に関する記述に全面的に依拠することのないようご注意ください。

本資料及びその記載内容について、当社の書面による事前の同意なしに、第三者が、その他の目的で公開又は利用することはできません。